

**重点課題**

【課題1】 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。(設問1四(1)ウ) 伝国  
 (平均正答率15.8% (県28.4%, 全国35.6%)) 「かんしんをもってもらいたい」の「かん」を「感」としている児童が65.8%

【課題2】 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができる。(設問2(1)) 読むこと  
 (平均正答率73.7% (県81.9%, 全国80.7%)) 文章を読み取り、食べ物が増える理由として、四つの選択肢の中から「細菌が増え、水分を蒸発させることができるから。」を選んだ児童が15.8%

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)**

【課題1】 教科書に載っている漢字や熟語を使って文章を作る活動を授業や自主勉強の中に取り入れるなど、漢字を正しく使って文章を書く指導を行う。  
 ・ 新出漢字や既習した漢字の小テストを繰り返し実施し、漢字の定着を図る。

【課題2】 目的や意図がはっきりと伝わるように、教材文の文章を引用して意見や感想を書く活動を取り入れるなど、確かな理由や根拠を明確にして文章を書く指導を行う。  
 ・ 教材文の中から、キーワードとなる言葉を見付け、線や印を工夫して記入する活動を取り入れるなど、情報を整理する指導を行う。

※ 小中一貫した取組については、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもたせ、情報を整理し、内容を捉える学習活動を取り入れる。

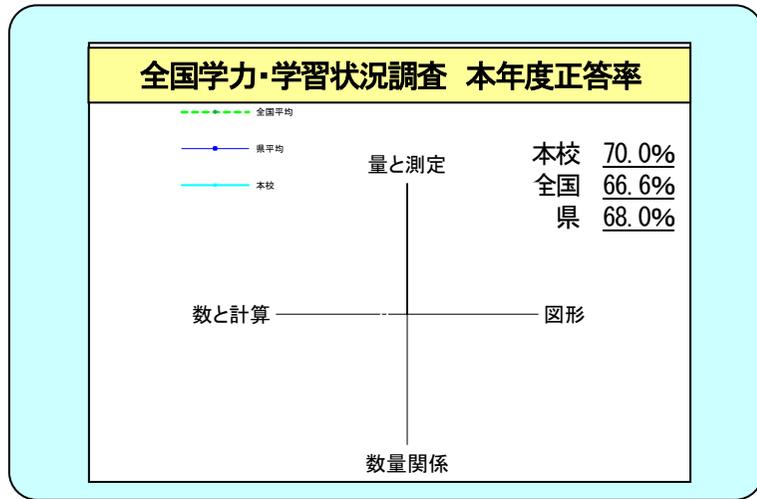
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	全学年 1期末漢字テスト			全学年 2期末漢字テスト	5・6年生 標準学力調査	全学年 1・2期復習漢字テスト	全学年 学年末漢字テスト
目標値	80%			80%	80%	80%	80%
実施後数値	80%			79%	5年 66.2% 6年 62.3%	71%	臨時休校により未実施

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 復習テスト			5年生 復習テスト	5年生 標準学力調査	5年生 H31「全国学力問題」	4・5年生 学年末テスト
目標値	70%			70%	70%	70%	75%
実施後数値	84%			87%	66.2%	学習進度の遅れにより未実施	臨時休校により未実施

**来年度に向けて**

臨時休校により未学習となっている学習を行う。  
 漢字の自主学習や小テスト等を繰り返し行い、漢字の定着を確実にする。  
 教材文に書かれている情報を整理し、内容を捉えさせたり、根拠を明確にして文章を書いたりする力を付ける。



重点課題

- 【課題1】示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。(設問1(3)) 量と測定  
(平均正答率34.2% (県43.6%, 全国43.9%)) 示された形の面積を求めるための減法の式の意味ではなく、引かれる数と引く数の求め方を答えた児童が28.9%
- 【課題2】示された棒グラフから2010年の市全体の水の使用量が、1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取ることができる。(設問2(2)) 式と計算, 数量関係  
(平均正答率68.4% (県79.5%, 全国78.6%)) 1980年の700万mm<sup>3</sup>から「7」と答えた児童が7.9%

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

- 【課題1】・式が表す意味を話し合ったり図と関連させて視覚的に整理したりしながら、面積の求め方を多角的に考察し伝える活動を設定する。  
・問題を解決するために必要な情報(図形の構成や要素)を見付け、条件に合わせて整理しながら考察する指導を行う。
  - 【課題2】・数値や言葉を書き込みながら、グラフの特徴や傾向を捉えたり考察したりするとともに、考えの根拠となる部分を示しながら話し合う活動を設定する。  
・日常生活の中から問題場面を見出し、数値を比べたり関連付けたりしながら考察し、その結果を再度確かめる場を設定する。
- ※ 小中一貫した取組については、自分の考えを、理由や根拠を明確にして示し、筋道を立てて説明することや、必要な情報を取り出したり、複数の資料を関連付けて分析したりする学習活動を取り入れる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 復習テスト			5年生 復習テスト	5年生 標準学力調査	5年生 H31「全国学力問題」	4・5年生 学年末テスト
目標値	70%			70%	70%	70%	75%
実施後数値	76%			68%	55.7%	学習進度の遅れにより未実施	臨時休校により未実施

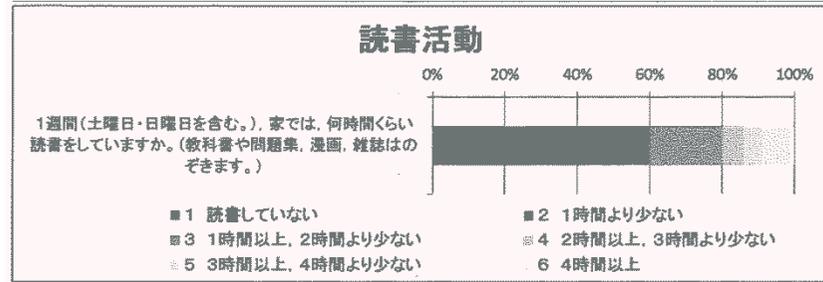
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法	5年生 復習テスト			5年生 復習テスト	5年生 標準学力調査	5年生 H31「全国学力問題」	4・5年生 学年末テスト
目標値	70%			70%	70%	70%	75%
実施後数値	74%			68%	55.7%	学習進度の遅れにより未実施	臨時休校により未実施

来年度に向けて

臨時休校により未学習となっている学習を行う。  
自主学習の充実や小テスト等を繰り返し行い、基礎的な学力の定着を図る。  
根拠となる必要な情報を取り出したり、複数の資料を関連付けて分析したりする力を付ける。

2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：児童質問紙調査)

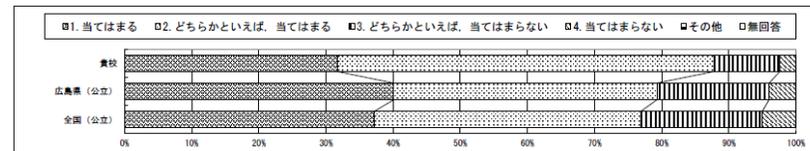
(1) 生活・学習



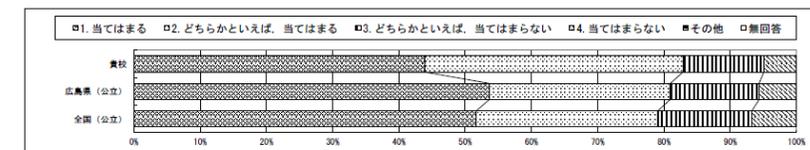
	児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
基礎・基本	1週間(土曜日・日曜日を含む。)、家では、何時間くらい読書をしていますか。(1時間以上読書をしている児童の割合40.1%)	授業でビブリオバトルや本の帯を作る活動等を取り入れて読書に興味をもたせ、読書を習慣づけていくようにする。週末に読書の宿題を出す。	5	80%以上	児童アンケート	2月	学習進度の遅れにより未実施
全国	学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(10分未満の児童が43.9%)	読書に関心がもてるようにする。普段の学校生活の中に読書を位置づけていくようにする。図書室を積極的に活用していくようにする。	6	10分未満の児童10%以下	児童アンケート	2月	学習進度の遅れにより未実施

(2) 教科

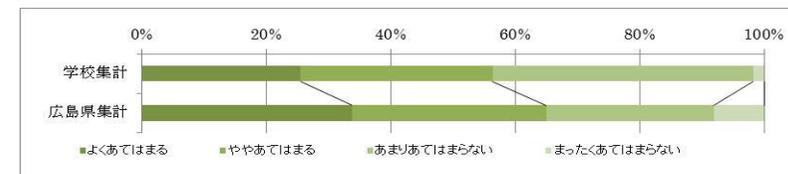
国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。



算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。



理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施後数値
基礎・基本	国語の授業では、伝えたいこと、話の中心がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。(肯定評価70.9%)	授業の発表だけでなく、朝の会で1分間スピーチを行う。その際にスピーチのテーマを設定し、時間内に伝えたいことが伝わるように話の組み立てを考えさせていく。	5	80%以上	児童アンケート	2月	学習進度の遅れにより未実施
全国	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか。(当てはまる31.7%)	活用する場面を設定し、国語の授業で学習したこととのつながりを意識させていく。	6	50%以上	児童アンケート	2月	学習進度の遅れにより未実施
基礎・基本	算数の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。(肯定評価74.6%)	授業で学んだことがどのような場面で使えるのか、ふり返りの視点として児童に意識させる。また、児童がそのようなふり返りを書いた場合、クラスで紹介する。	5	85%以上	児童アンケート	2月	学習進度の遅れにより未実施
全国	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか。(当てはまる43.9%)	パフォーマンス課題を工夫して、新しい問題に出合ったときに解いてみようという意欲を高める。	6	55%以上	児童アンケート	2月	学習進度の遅れにより未実施
基礎・基本	理科の授業で学んだことを、ふだんの生活で使ったり、学んだことがどのような場面で使えるのか考えたりしています。(肯定評価69.1%)	授業で学んだことがどのような場面で使えるのか、ふり返りの視点として児童に意識させる。また、児童がそのようなふり返りを書いた場合、次の授業で紹介する。	5	75%以上	児童アンケート	2月	学習進度の遅れにより未実施